

(仮称) 屋代スマートIC周辺での交通拠点整備に関する サウンディング調査

事業概要書

令和6年12月

千曲市 企画政策部 公民共創推進室
株式会社オリエンタルコンサルタンツ

1. 調査の背景と目的	2
2. 交通拠点の必要性	3
3. 事業対象地の概要	4
4. 事業対象地の現状（高速バス利用実態調査結果） .	7
5. 事業対象地の現状（周辺施設概要）	11
6. 事業手法	15
7. 参考事例	17
8. 事業スケジュール（案）	19

1. 調査の背景と目的

【調査の背景】

- 千曲市には、首都圏と北陸圏を結ぶ**上信越自動車道**と、中央自動車道につながる**長野自動車道**が結ばれる更埴ジャンクションがあり、**県内有数の交通の要衝**となっています。
- また、令和5年9月には、新たな高速交通網との結節点となる上信越自動車道（仮称）**屋代スマートICの事業化**が決定するなど、今後さらなる交通需要や観光客の増加が見込まれます。
- 本事業は、市内に点在している**観光地や主要施設を結ぶ多様な交通手段の確保**により市内の回遊性・交通利便性を向上させるとともに、**首都圏からの高速バス観光需要を取り入れる**ことで、賑わいづくりに寄与する**新たな交通拠点（モーダルコネクト拠点、上信越道屋代バス停を含む）を整備**するものです。

【調査の目的】

- 本事業における民間との連携可能性を把握するため、民間事業者の皆様より、以下についてご意見をいただくことを目的とします。

- ①本事業の**ポテンシャル・参画意向**について
- ②**事業・施設内容**のアイデアについて（本施設で実施したい事業や、必要な機能 等）
- ③**施設間連携**のアイデアについて（本施設と連携可能な施設や連携の内容(イベント、情報発信等) 等）
- ④**事業スキーム**について（整備～運営事業について参画したい段階や関わり方 等）
- ⑤**モーダルコネクト※1実現**に対するご意見について（接続が考えられる交通手段、接続の課題 等）

※1：多様な交通モード（交通手段）を接続させること。これにより、利用者が多様な交通を利用・選択しやすい環境となることで、住民の日常生活の利便向上や経済活動の活性化などが期待される。

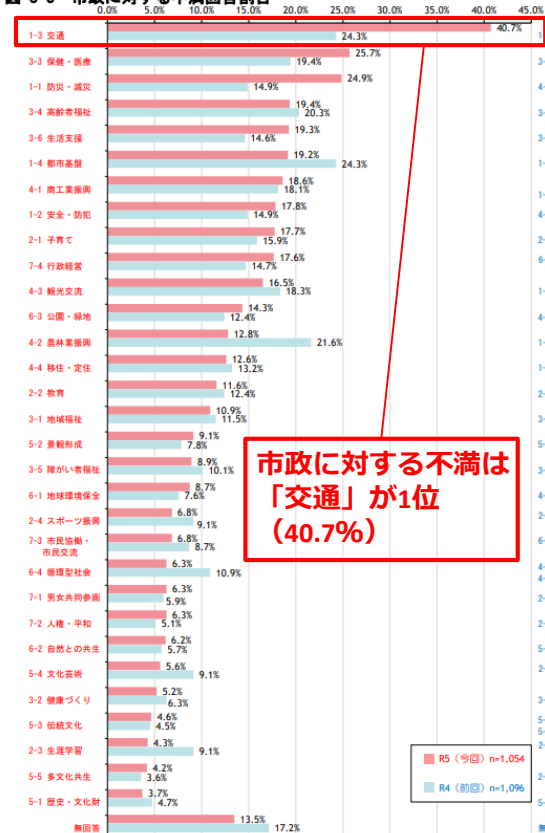
2. 交通拠点の必要性

- 千曲市の交通には、以下の課題があります。

- 令和5年度市民意識調査では、**市政に対する不満事項第1位は「交通」**（40.7%）。
 - 全人口の97.8%に対し公共交通網がカバーされているものの、**市民の移動は自家用車へ依存傾向**にあり、高齢化が進む本市においては**公共交通への転換が求められる**。[千曲市地域公共交通計画より]
 - 高速バスの二次交通も自家用車**（自分が運転または送迎）が**大半**であり、高速バスを利用した観光需要の取り込みが十分にできていないことが想定される。[高速バス利用実態調査より]
- 観光及び住民生活における**市内の回遊性・交通利便性を向上させる**ため、多様な交通手段を繋ぐ交通拠点の整備が求められています。

① 令和5年度市民意識調査

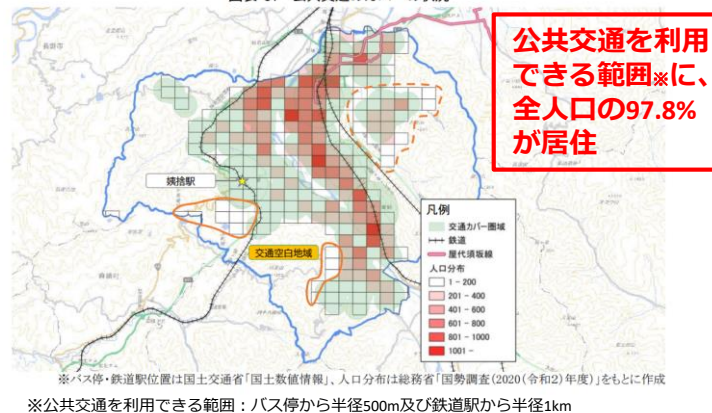
図 3-3 市政に対する不満回答割合



市政に対する不満は「交通」が1位 (40.7%)

② 千曲市地域公共交通計画

図表 31 公共交通のカバーの状況



自家用車での移動が多い傾向

図表 22 移動目的別の利用の規模と交通手段

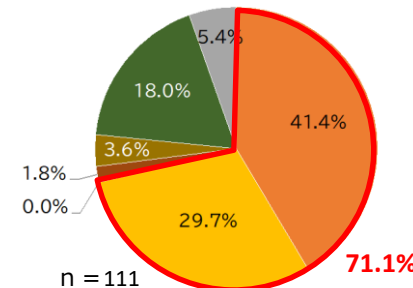
移動先	移動目的	主な頻度	交通手段				
			市内幹線/支線	広域幹線	自家用車/原付/バイク	家族送迎	徒歩/自転車等のみ
市内	通勤 (n=404)	毎日	2.5%	3.0%	84.4%	3.5%	6.9%
	通学 (n=28)	毎日	0.0%	32.1%	0.0%	25.0%	67.9%
	通院 (n=801)	月1回程度	2.5%	1.5%	66.2%	19.2%	10.4%
	買物 (n=1,126)	週1~2回程度	0.7%	0.1%	81.2%	10.3%	9.6%
	通勤 (n=309)	毎日	0.6%	23.3%	81.2%	5.8%	2.9%
	通学 (n=47)	毎日	6.4%	74.5%	6.4%	46.8%	25.5%
市外	通院 (n=551)	月1回程度	2.5%	14.7%	59.2%	23.0%	2.2%
	買物 (n=637)	週1~2回程度	1.9%	17.9%	66.4%	14.4%	2.8%

③ 高速バス利用実態調査

高速バス利用者を対象としたアンケート調査

【対象】 上信越道歴代バス停を乗降した高速バス利用者
【調査日】 2024年11月4日(月・祝)、5日(火)、8日(金)、9日(土)
【時間】 始発4:46~終発23:06

バス停までの移動手段割合



高速バスの二次交通は自家用車が大半を占める

1. 自動車(自分が運転)
2. 自動車(送迎)
3. バイク
4. 自転車
5. 路線バス
6. その他
7. 不明

3. 事業対象地の概要

- 事業対象地は(仮称)屋代スマートICの隣接地であり、さらには国道403号と県道白石千曲線の間に位置しており、**新たな交通の要衝となり得るポテンシャル**を持っています。
- 対象地の近隣には森將軍塚古墳、あんずの里アグリパークなどがあり、また、市内には戸倉上山田温泉や日本遺産「月の都 千曲」を構成する娯捨の棚田などの**多様な観光資源**があります。



出典：長野県内の高規格道路の整備状況について（長野県）



①あんずの里アグリパーク



②森將軍塚古墳

④あんずの里



⑦戸倉上山田温泉

3. 事業対象地の概要

- 「長野県地域公共交通計画（令和6年6月）」において、本事業地（千曲（屋代））は、主要幹線（隣接県連携、広域圏間連携）※1が通過する地域拠点※2に位置付けられており、地域公共交通の結節点としての役割が求められています。

※主要幹線：隣接県と県内や、県内の広域圏間を結ぶ路線。

※地域拠点：一般的な行政手続きや一次医療（かかりつけ医）、日用品の買い物、用足などに対応した地域の中心部。県内外の観光客が訪れる観光地。

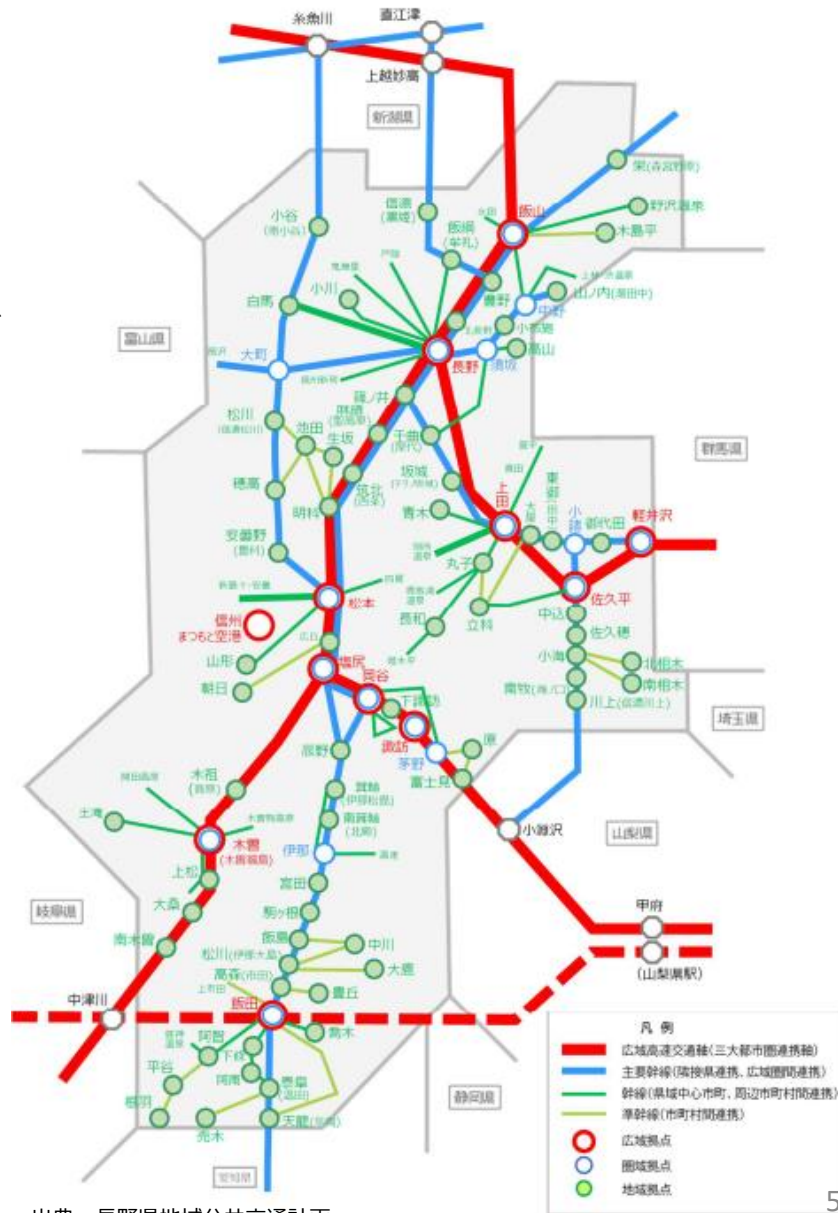
- 市内に停留する高速バスは2路線（長野・須坂-池袋・新宿、軽井沢-大阪）あります。
- 本事業対象地近接の「**上信越道屋代バス停**」は、**本事業で整備する交通拠点内に代替機能を整備する予定**です。

■千曲市を運行する広域幹線（高速バスの路線は除く）



出典：千曲市地域公共交通計画を元に作成

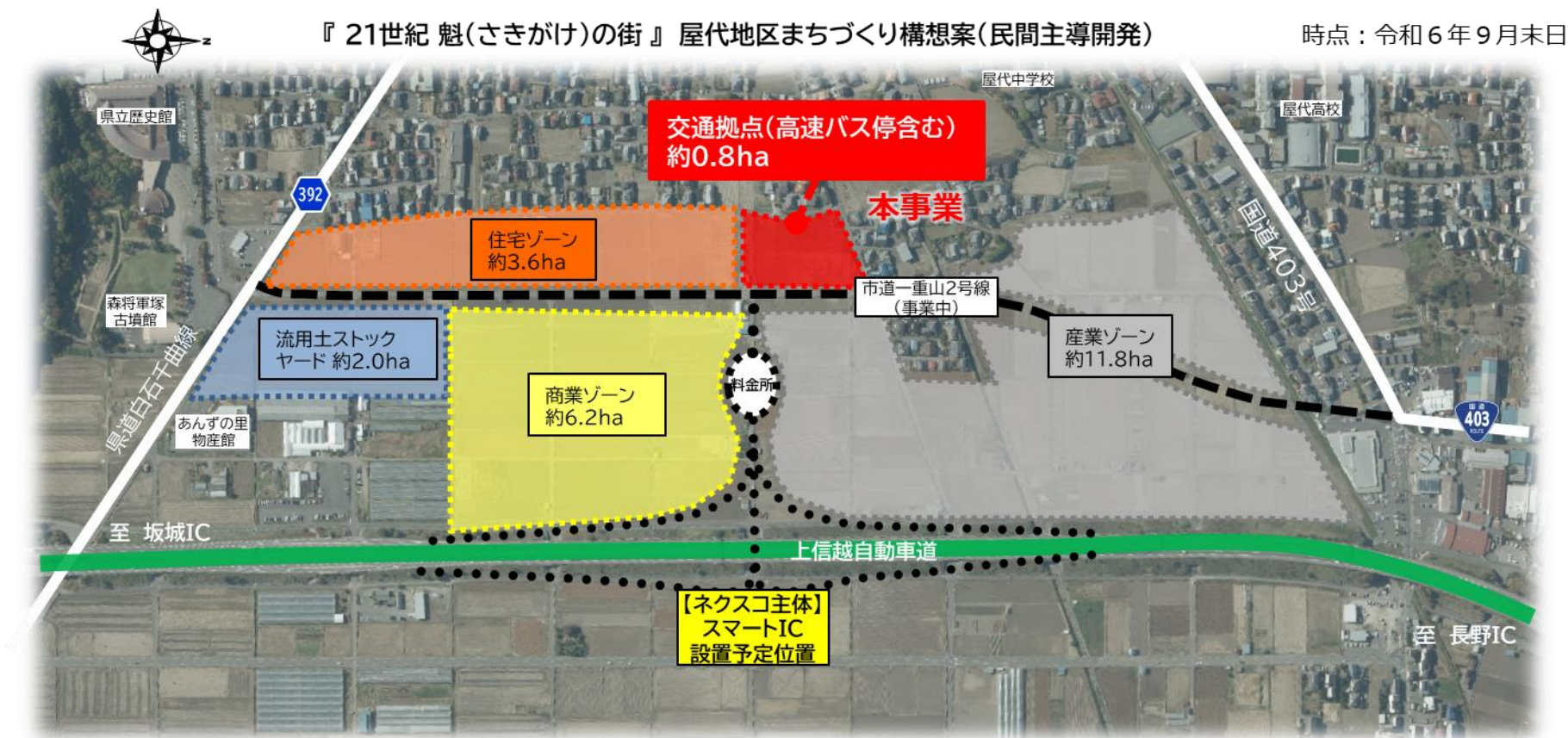
■拠点と軸・主要幹線を接続した地域公共交通ネットワークのイメージ



出典：長野県地域公共交通計画

3. 事業対象地の概要

- ・ 本事業の区域は、**(仮称)屋代スマートICに隣接する位置**を予定しています。
- ・ **周辺には民間開発が予定**されており、商業ゾーン、産業ゾーン、住宅ゾーンの整備が計画されています。



※本図は屋代地区開発事業に係る地権者会の情報を元に作成した構想案であり、各ゾーンの大きさ・内容など決定したものではありません。

出典：屋代地区まちづくりニュース第17号（屋代地区開発事業に係る地権者会）の情報を元に作成

4. 事業対象地の現状（高速バス利用実態調査結果）

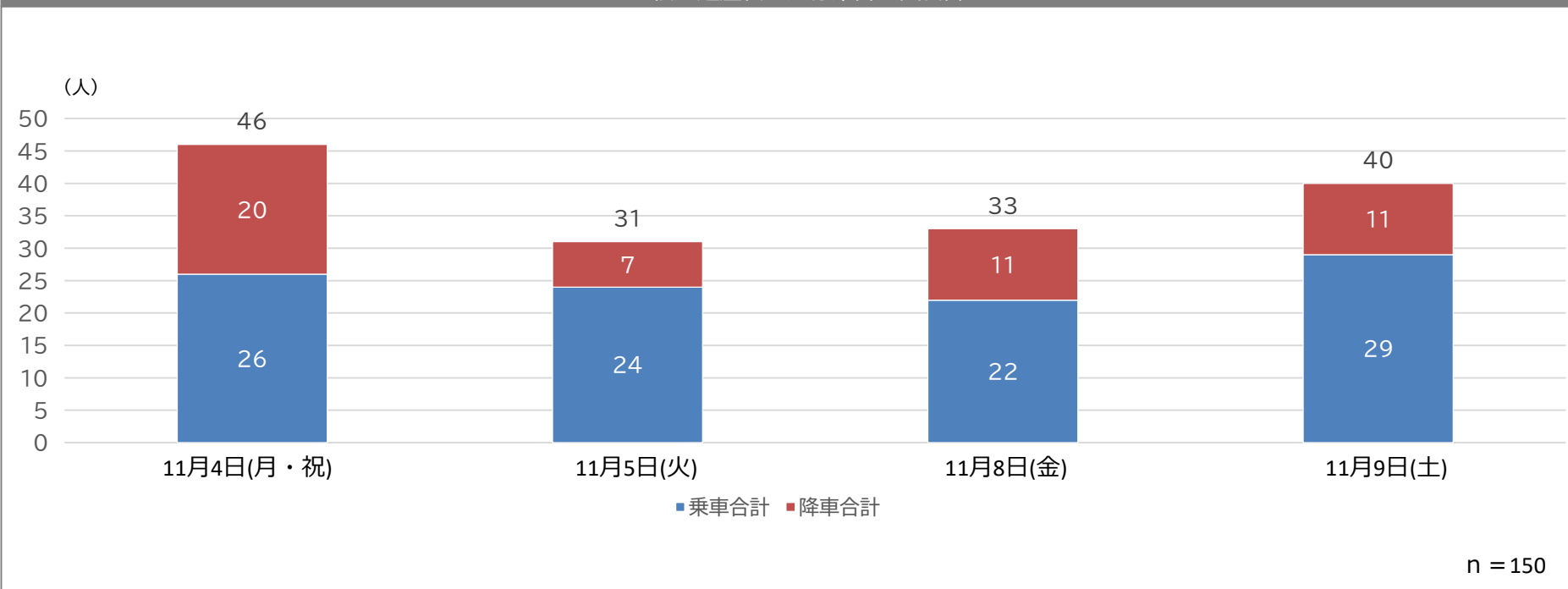
- 「上信越道屋代バス停」について、利用実態を把握するため、高速バスの発着ごとの乗降客数カウント調査と、高速バス利用者を対象としたアンケート調査を実施しました。

【調査日】2024年11月4日(月・祝)、5日(火)、8日(金)、9日(土) 【時間】始発4:46～終発23:06

高速バス乗降客数のカウント調査

降車よりも乗車の方が多い。また、祝休日の利用がやや多い。

上信越道屋代バス停乗降人員合計

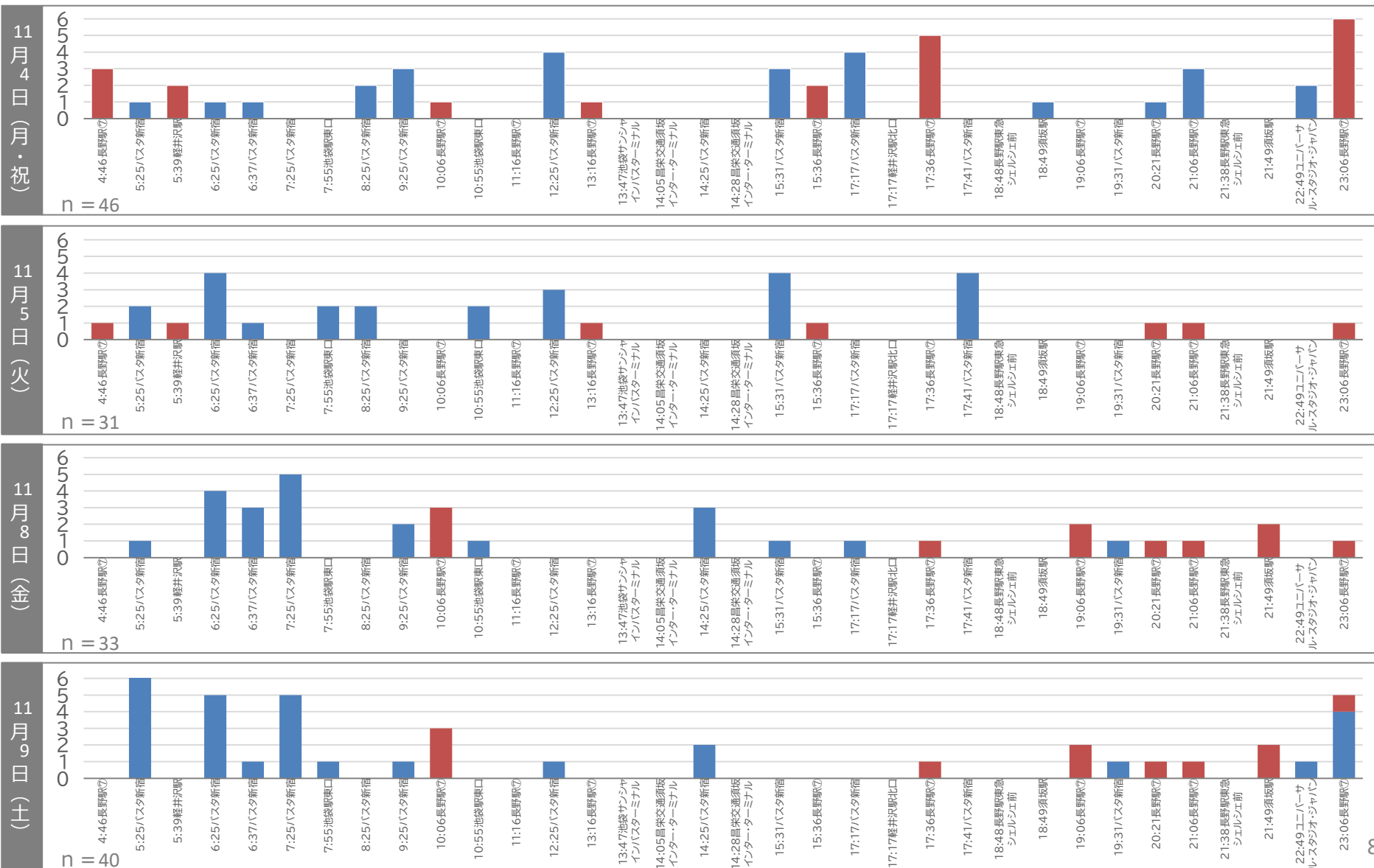


4. 事業対象地の現状（高速バス利用実態調査結果）

高速バス乗降客数のカウント調査

■ 乗車合計 ■ 降車合計

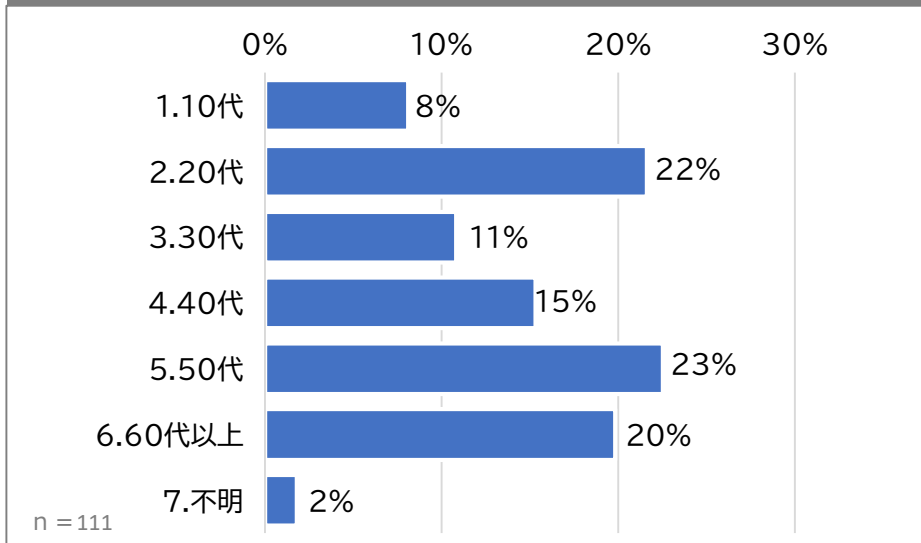
乗車は午前中に集中する傾向にあり、降車は夜が多い傾向がある。



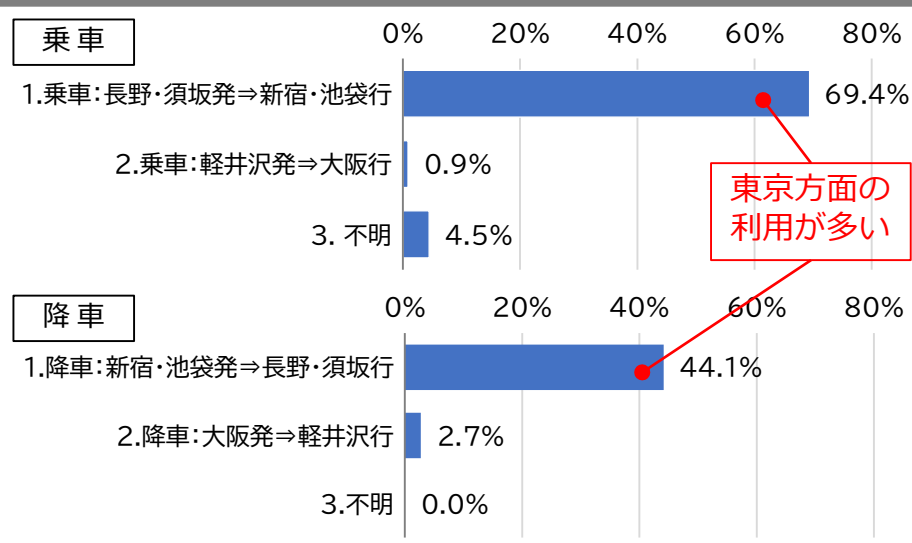
4. 事業対象地の現状（高速バス利用実態調査結果）

アンケート調査

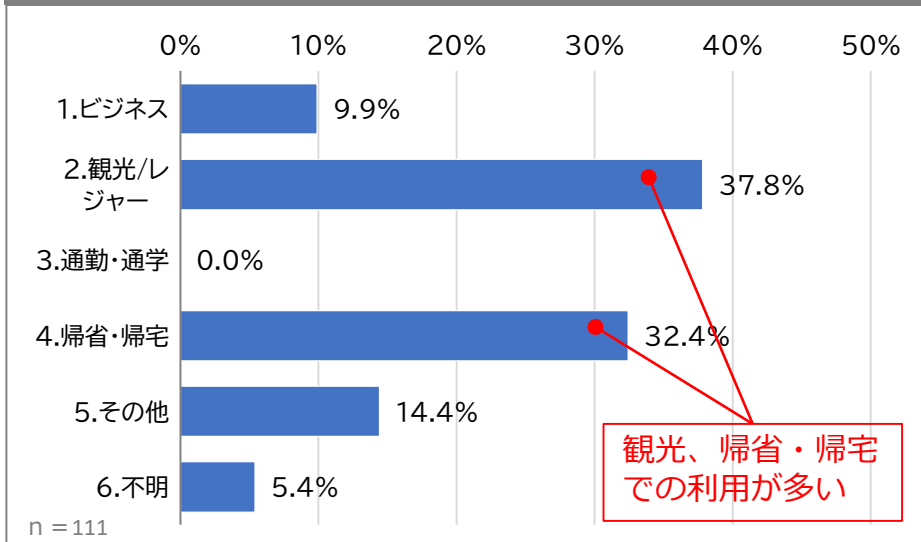
アンケート回答者の年代



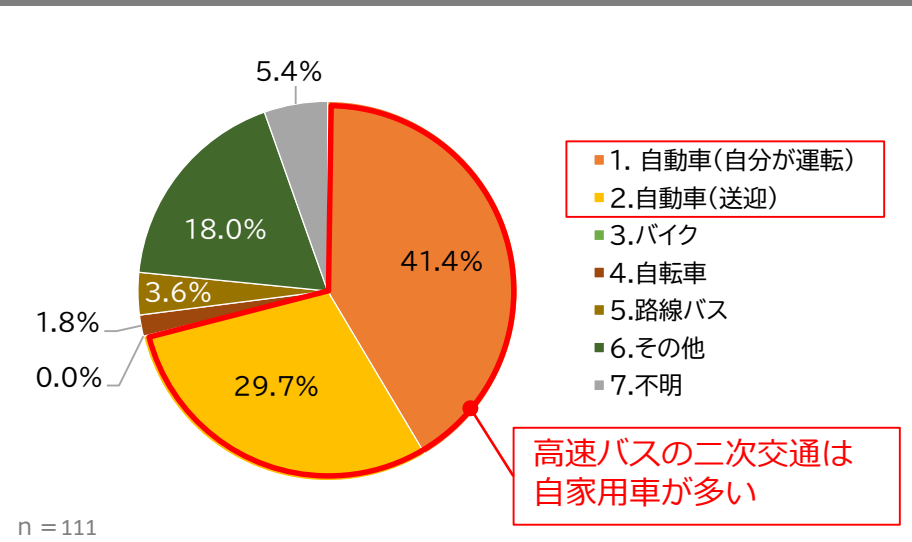
利用した高速バスの方面（乗車・降車）



高速バスの利用目的



バス停までの移動手段



4. 事業対象地の現状（高速バス利用実態調査結果）

アンケート調査

必要な施設① 絶対に必要と思うもの

0% 20% 40% 60% 80% 100%

清潔感のある、トイレや上屋のある待合空間 88.7%

飲食できるベンチ・テーブルのある待合空間 28.9%

飲食施設(カフェ) 17.5%

地域の土産物や農産物の販売施設 5.2%

子どもが遊べる空間 1.0%

地域のイベントを行う空間 0.0%

読書やPC作業ができるテレワーク空間 3.1%

二次交通(路線バス・タクシー・レンタカー)の充実 10.3%

観光や地域の情報提供 8.2%

バスの時刻案内(リアルタイム情報) 42.3%

n = 97

必要な施設② あれば快適に過ごせるもの

0% 20% 40% 60% 80% 100%

清潔感のある、トイレや上屋のある待合空間 15.7%

飲食できるベンチ・テーブルのある待合空間 43.4%

飲食施設(カフェ) 39.8%

地域の土産物や農産物の販売施設 19.3%

子どもが遊べる空間 4.8%

地域のイベントを行う空間 4.8%

読書やPC作業ができるテレワーク空間 12.0%

二次交通(路線バス・タクシー・レンタカー)の充実 14.5%

観光や地域の情報提供 10.8%

バスの時刻案内(リアルタイム情報) 16.9%

n = 83

必要な施設③ 市民に馴染みある施設になるもの

0% 20% 40% 60% 80% 100%

清潔感のある、トイレや上屋のある待合空間 2.7%

飲食できるベンチ・テーブルのある待合空間 10.8%

飲食施設(カフェ) 16.2%

地域の土産物や農産物の販売施設 52.7%

子どもが遊べる空間 25.7%

地域のイベントを行う空間 32.4%

読書やPC作業ができるテレワーク空間 6.8%

二次交通(路線バス・タクシー・レンタカー)の充実 4.1%

観光や地域の情報提供 24.3%

バスの時刻案内(リアルタイム情報) 2.7%

n = 74

5. 事業対象地の現状（周辺施設概要）

- 事業対象地の周辺には、あんずの里アグリパーク、あんずの里物産館といった農業振興施設や、森將軍塚古墳をはじめとする歴史文化施設が立地しています。



5. 事業対象地の現状（周辺施設概要）

① あんずの里アグリパーク

所在地 長野県千曲市大字屋代515-1

【施設概要】

施設	施設詳細
くだもの狩り	いちご狩り、みかん狩りができる施設
花屋	フラワーガーデン
フードパーク	アグリパークいちごベーカリー、軽食喫茶、キッズスペース



出典：信州千曲観光局HP



出典：施設HP



出典：施設HP



出典：施設HP

② あんずの里物産館

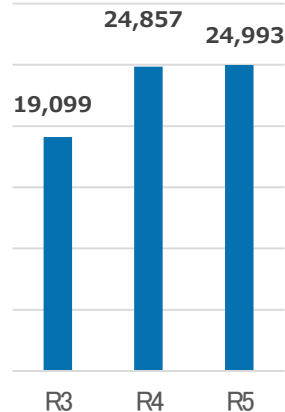
所在地 長野県千曲市大字屋代507-1

面積 【建築面積】 992㎡ 【階数】 地上1階

【施設概要】

施設	施設詳細
売店	あんず加工食品、古墳グッズ、フルーツ加工品、地元農産物、工芸品等 販売
レストラン	「ごはんやはっぴい」 定食・ラーメンの販売
昭和レトロ街	駄菓子やおもちゃの販売、昭和レトロエリア
あんずファーム	当施設専用のあんず畑

利用者（人）



出典：(株)エーシー工設計



出典：施設HP

5. 事業対象地の現状（周辺施設概要）

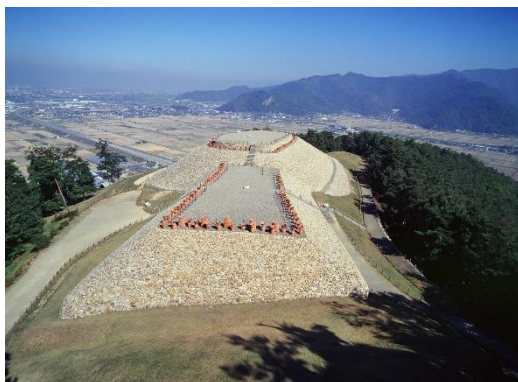
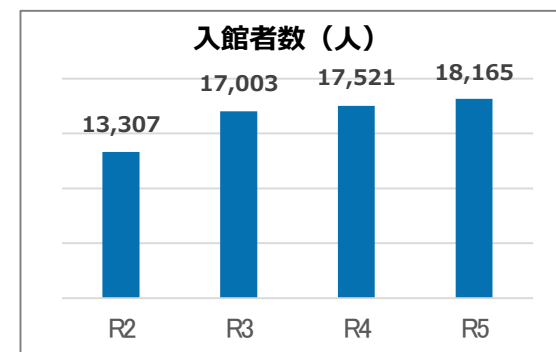
③森將軍塚古墳

所在地	長野県千曲市森3122
規模	【全長】約100m 【前方部幅】約30m 【後円部径】約50m
概要	約1650年前に造られた長野県最大規模の前方後円墳。昭和56年に国の史跡に指定。昭和56年度から平成3年度までの11年間にわたって古墳の保存整備事業が行われ、全面発掘・調査の結果に基づき築造当時の姿に復元。

【森將軍塚古墳館 施設概要】

所在地	長野県千曲市屋代29-1		
開館	平成9年4月15日	面積	【延床面積】 1,230㎡ 【階数】 地上2階

施設	施設詳細
古墳館1階	竪穴式石室の内部の様子や、石が積まれた石室の側面が再現され、実物の石に触れることができる展示。
古墳館2階	中央に竪穴式石室がある後円部を再現し、周りにマルチ映像コーナーや土器、埴輪、副葬品などの展示をはじめ、長野県内の古墳、埋葬や発掘に関することなどをパネルや写真で紹介。



出典：千曲市HP



出典：日本交通公社HP



出典：日本交通公社HP

5. 事業対象地の現状（周辺施設概要）

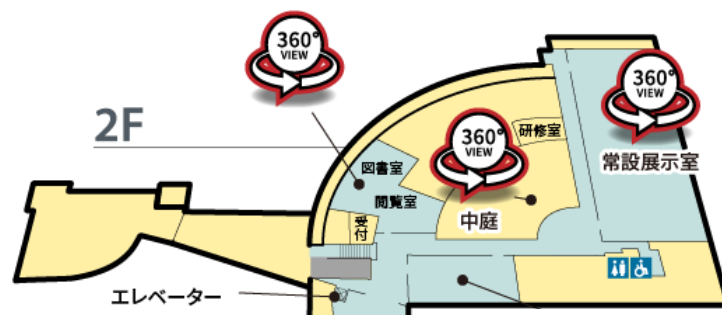
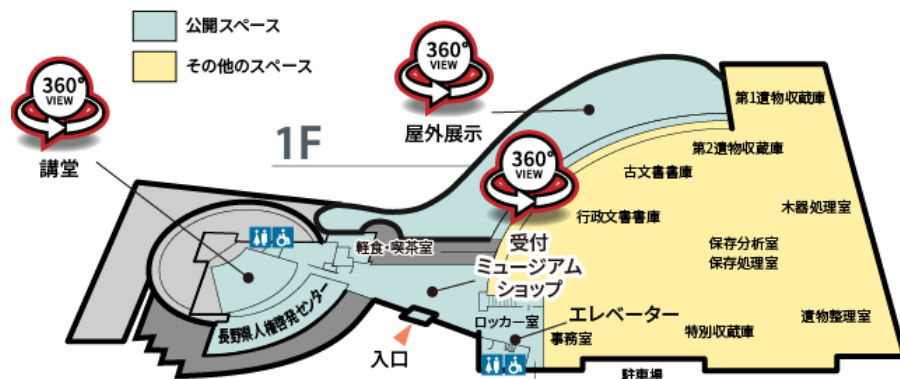
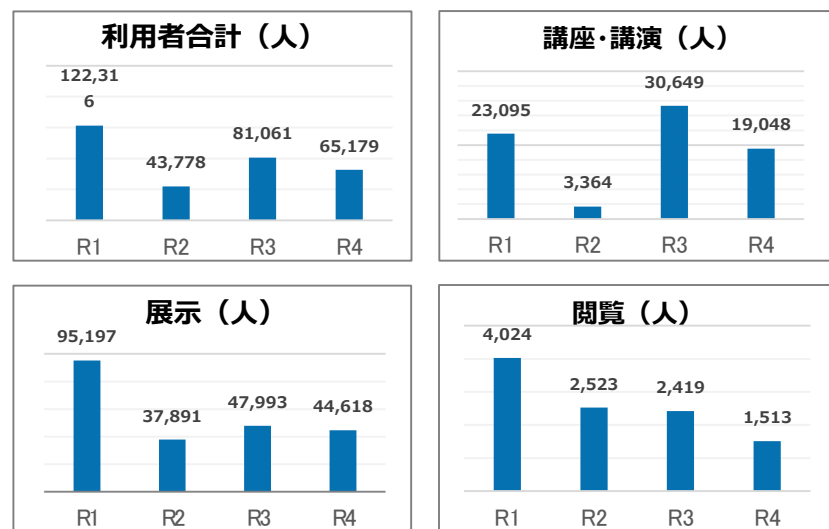
④長野県立歴史館

所在地	長野県千曲市大字屋代260-6		
開館	平成6年11月3日	面積	【敷地面積】 19,593㎡ 【建築面積】 6,702㎡ 【延床面積】 10,457㎡ 【階数】 地上2階

【施設概要】

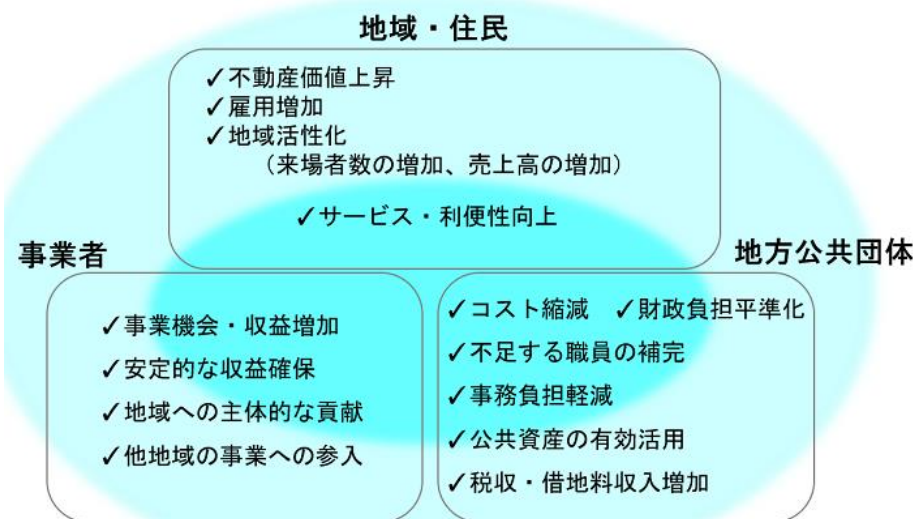
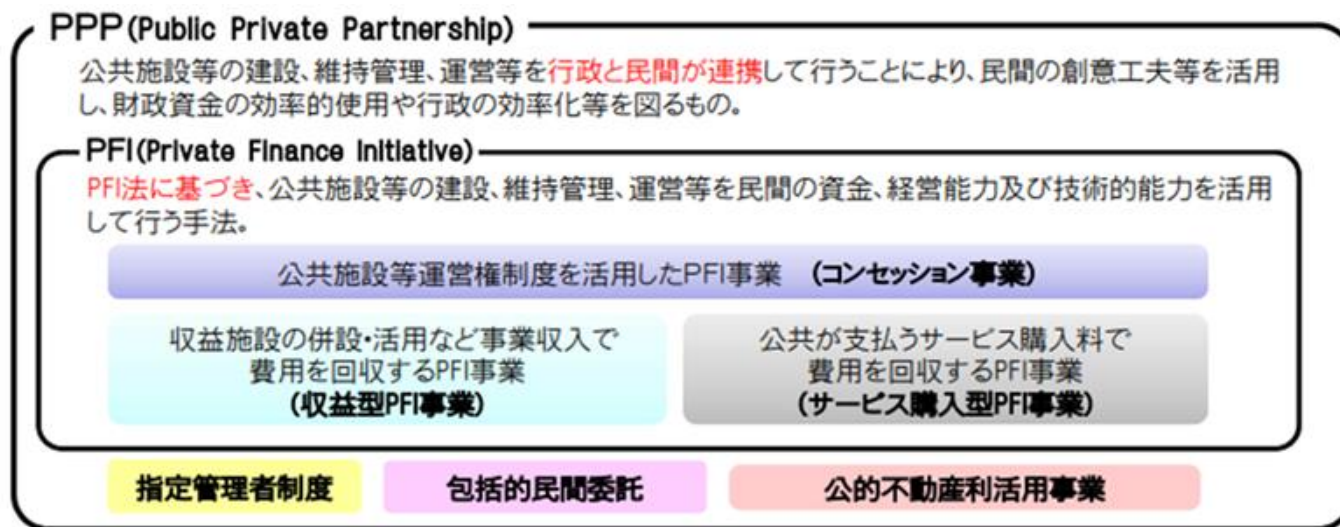
施設	施設詳細
1階 公開スペース	長野県人権哲発センター・軽食・喫茶室
1階 非公開スペース	古文書書庫・行政文書書庫・分析室・遺物整理室・木器処理室・遺物所蔵庫・保存分析室・保存処理室
企画展示室	年に数回テーマを決めて企画展を開催
2階 常設展示室	古代から現代までの信州の生活の歴史を時代を追いながら学べる「常設展示室」を開設
2階 図書館・閲覧室	図書資料・考古資料・特定歴史公文書（行政文書）・行政資料・古文書・長野県立歴史館収蔵データ等の閲覧が可能

【利用人数】



6. 事業手法

- 公共施設の整備、運営等においては、官民連携（PPP）の取り組みが推進されており、**本事業においても官民連携による施設整備、運営を検討**しています。



6. 事業手法

- 事業手法は、「公設公営」「公設民営」「民設民営」の大きく3つに分けられます。

	公設公営	公設民営	民設民営
概要	公共が施設を整備し、公共が運営する	公共が資金調達をして施設を整備し、民間事業者が運営する	民間が資金調達をして施設を整備し、民間事業者が運営する
	〈民間関与の度合い〉 小		大
手法例	自治体直営（一部委託）	公設＋指定管理者制度／公設＋コンセッション／DBO 等	PFI 等
メリデメ	メリット：行政目的に沿った運営が可能 等 デメリット：収益施設等の運営ノウハウが少ないため、効果的な施設運営が難しい 等	メリット：運営部分に民間事業者のノウハウを活用でき、効果的な施設運営が期待できる 等 デメリット：施設整備は公共が行うため、民間事業者が効果的に運営しづらい施設となる可能性がある 等	メリット：民間事業者のノウハウを幅広く活用でき、効果的な施設整備～運営が期待できる／サービスレベルの向上が期待できる 等 デメリット：民間事業者の自由度が高いため、事業継続のリスクがある 等

- 民間事業者の参入段階も大きく以下の4つに分けられます。

：公共の事業範囲

：民間事業者の事業範囲

設計・建設・運営 別発注型	設計・建設・運営を別で発注		手法例 ・公設＋指定管理者制度 ・公設＋コンセッション 等
運営先行選定型	運営事業者を先行して選定し、別発注の設計・建設に意見を反映		手法例 ・EOI方式 （・公設＋指定管理者制度） （・公設＋コンセッション） 等
設計・建設別発注型	設計と管理運営を行う事業者を一括で発注し、設計に運営事業者の意見を反映		手法例 ・DO方式 等
一括発注型	設計・建設・運営を一括で発注（運営を見据えた設計建設が可能）		手法例 ・DBO方式 ・PFI 等

7. 参考事例

※参考事例はアンケート回答のための参考イメージであり、
参考事例の施設を全て整備することを示唆するものではありません

加東バスターミナル（兵庫県加東市）

複数の交通（バス、タクシー、一般車、自転車）を集約したバスターミナル。「にぎわい交流施設halk」は、飲食施設や待合機能等を有する。近接する商業施設とも連携し、相互に利活用を促進。

やしろショッピングパークBio



バスターミナル

- ・路線バス
- ・高速バス
- ・乗合タクシー
- ・タクシー
- ・観光バス（予約制）

にぎわい交流施設

- ・飲食施設2店舗
- ・待合室
- ・トイレ
- ・情報発信施設
- ・図書返却ボックス

パーク&ライド駐車場

- ・駐車スペース（約100台）
- ・駐輪スペース（約60台）



面積

総敷地面積：
約7800㎡
施設延床面積：
約220㎡、平屋

出典：加東市HP

■賑わい交流施設（halk）の事業方式

	DBO方式			
概要	公共が資金調達を行い、設計・建設・管理運営を包括的に民間に発注する。管理運営は、施設完成後に構成員（※SPCまたはJV）である管理運営会社が維持管理運営する。			
事業手法タイプ	公設民営			
	施設所有	資金調達	設計建設	管理運営
	公共	公共	民間	民間
民間参入段階	一括発注型			
：公共 ：民間	設計 建設 管理運営			
スキーム図				

7. 参考事例

※参考事例はアンケート回答のための参考イメージであり、参考事例の施設を全て整備することを示唆するものではありません

道の駅もつくる新城（愛知県新城市）

新城IC近接の道の駅。一般車駐車場のみならず、高速バス・路線バスの停留所を有する。



駐車場内

- ・駐車場
(小型75台、大型13台、身障者用2台)
- ・EV充電器
- ・案内所
- ・公衆電話
- ・バス停（高速バス、路線バス）

施設内

- ・飲食施設
- ・売店
- ・産直販売所
- ・屋外ステージ
- ・トイレ
- ・ベビーコーナー



面積

総敷地面積：
約10,296㎡
施設延床面積：
約1,074㎡、2階建

出典：もつくる新城HP

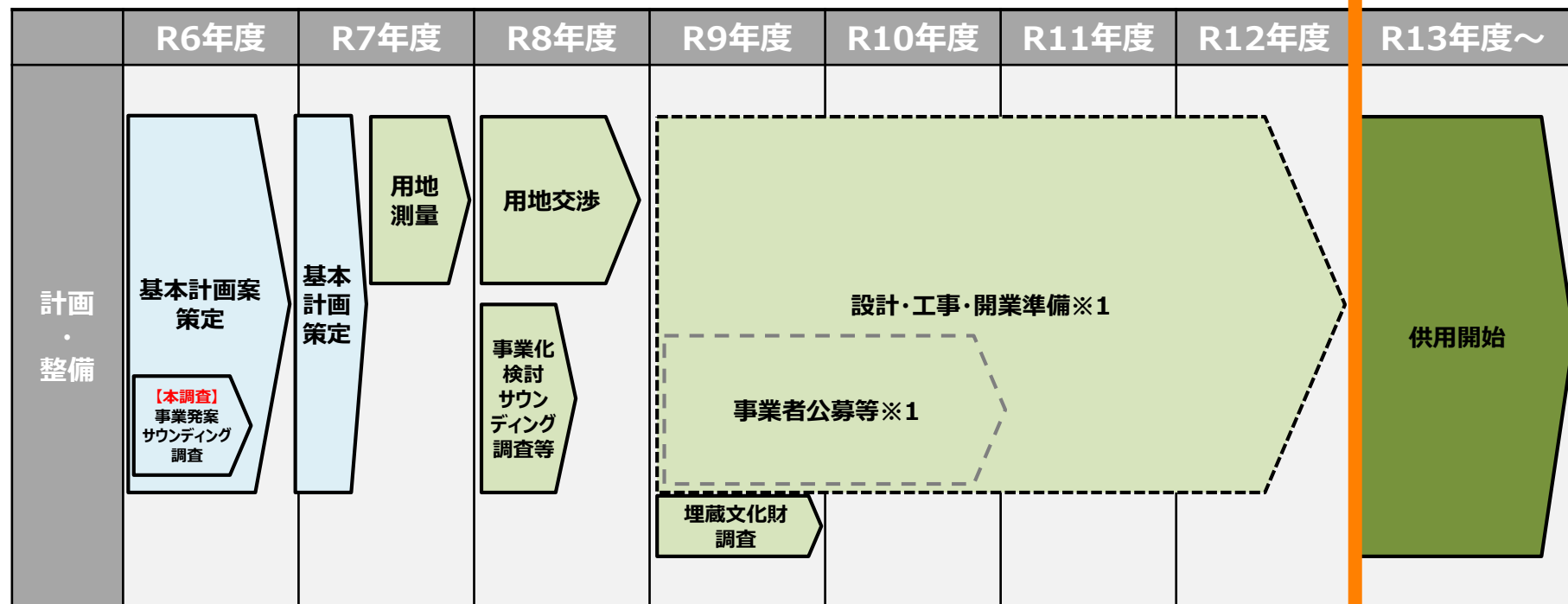
■道の駅もつくる新城の事業方式

	公設＋指定管理者制度			
概要	公共が資金調達を行い、施設の設計・建設・管理運営を個別に発注する。管理運営会社を指定管理者として指定する。指定管理者は、公共的団体（第3セクター）または民間事業者等が考えられる。			
事業手法タイプ	公設民営			
	施設所有	資金調達	設計建設	管理運営
	公共	公共	公共	民間
民間参入段階	設計・建設・運営別発注型			
	設計 建設 管理運営 公共 民間			
スキーム図				

8. 事業スケジュール（案）

- 本調査では、施設内容及び事業内容等（p.2参照）について、幅広くアイデアを募集します。
- 次年度以降にも、深掘りのサウンディング調査を行いながら、事業内容の具体化、民間活力導入の可能性検証を進めます。
- 本事業に係る各種検討・調査・整備は、(仮称)屋代スマートIC及び周辺開発の進捗に合わせて行う予定です。

市は、令和12年度の(仮称)屋代スマートIC完成を目指しています



※1：事業者公募に関連する項目や、整備に係る項目は、官民連携の実現可否や事業手法によってスケジュールが変動する。

※事業スケジュールはあくまで現時点での想定であり、今後変更の可能性がございます。



【本件に関するお問合せ】

千曲市 企画政策部 公民共創推進室
担当：轟・川浪・宮下
Mail : kaisui@city.chikuma.lg.jp
Tel : 026-273-1111 内線 2251

調査受注者
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
関東支社 都市政策・デザイン部
担当：本間・板橋
Mail : chikuma-modalconnect@oriconsul.com
Tel : 03-6311-7856

- 無断での複製・転載・転送等のご遠慮ください。
- 本資料に関するお問合せは上記へ御願いたします。